

目次

はじめに	1
第1章 日本語学を支える言語思想の限界 —現在の言語研究の制約を超えて—	7
第2章 20世紀前半の日本語学におけるソシュールの受容 —橋本進吉と 時枝誠記の言語思想について—	35
第3章 テクスト論から見た文法的単位の再検討 —日本語教育教材論の基礎造りに向けて—	73
第4章 態に関する文法カテゴリーの考察 —能動態と受動態を超える領域を目指して—	105
第5章 言語単位としての近代小説の文法 —バフチンの対話性から見る典型的文章構成の意味—	133
第6章 談話研究における言語単位の考察 —日本語教育の現場と研究の革新のために—	167

第7章	アンチ・ポライトネスのディスコース — 談話ストラテジー研究の多元化・多様化に向けて — …	203
第8章	メディア・テキストにおける ビジュアル要素の形式とその機能 ……………	223
第9章	ジャンル性における引用表現 — 新聞社説における表現構成とその機能 — ……………	259
第10章	日本語教育教材論のための効果的な説明表現 — 説得心理学から見た就職用書類の書き方をめぐって —	299
おわりに	……………	329
初出一覧	……………	341